

テレホン法話（10月前半）

第2組 教福寺住職 黒田恵以真

私たち真宗のご本尊は、阿弥陀如来です。礼拝の作法は、ご本尊を仰ぎ見て合掌し、「なむあみだぶつ」とお念仏を称えます。そして、合掌を解いてから頭を下げ、頭礼します。

よく、合掌したままで頭を下げておられる方をお見受けいたしますが、真宗大谷派のご門徒でありますならば、合掌を解いてから頭礼するように心がけましょう。

この礼拝の姿は、仏さまに合掌することは仏さまに対して私たちの勝手なお願いや注文をすることではないということを表しているのです。阿弥陀さまの救いは、私たちの決して満足することのない、飽くなき欲望をかなえることではありません。そうではなく、阿弥陀さまがすでにご用意されている万人が平等に救われる道について、そのいわれを聞き開いて、本当に救われるとはどういうことかをはっきりさせていただくことであります。

念仏の教えに遇わせていただくことにより「思い通りにならない世界から逃げなくていい」ことがはっきりとさせられます。さわりがさわりにならない世界、「無碍の一道」が開かれるのです。そして、阿弥陀さまの「あなたはあなたのままでいい」との呼びかけに「何一つ変える必要のないこの身このままの自分」が本当にいただけるのではないのでしょうか。

阿弥陀如来の救いをいただくにはどうしたらいいのでしょうか。それには南無阿弥陀仏というお念仏のいわれをたずねることが一番の早道です。「一に聞法、二に聞法」とお寺の法話を聞くことが何より大切です。

蓮如上人のお言葉に「わかきとき、仏法はたしなめ」ということばがあります。仏法を聞くのに早すぎるということありません。自らも聴聞させていただき、子や孫にも仏縁を共にして、仏さまの教えに守られた真宗門徒の生活をさせていただきたいものであります。